

東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

結局、自分の大好きな1冊を見つける。

その「運命の1冊」との出会いによって、読書嫌いが、読書好きに変わる。

～樺沢紫苑著『読んだら忘れない読書術』(サンマーク出版) p.75より～

◇ 4年ぶりの開催! 学生選書ツアー2023@紀伊國屋書店新宿本店 ◇



(前列左: 紀伊國屋書店 高井社長様、前列右: 東都大学 吉岡学長、中央・後列: 東都大学深谷キャンパスの学生の皆さん)

残暑の続く2023年9月11日(月)。コロナ禍により2020年以降実施が見送られてまいりました学生選書ツアーが、実に4年ぶりに紀伊國屋書店新宿本店で開催されました。ツアー当日は紀伊國屋書店 高井社長様と東都大学 吉岡学長も会場へ足をお運びくださいり、学生たちへ激励のお言葉をかけてくださいました。2022年にリニューアルオープンした紀伊國屋書店新宿本店は、まるで本のアミューズメントパークのようで、ツアーに参加した学生たちもとても楽しそうに、そして一生懸命に本を選んでいました。「一人当たりの予算上限では足りないくらい、選びたい本がたくさんあった」「実際に書店に足を運んで、普段は読まないジャンルの本をゆっくり見ることができた」「電子書籍で読むことが多いが、久しぶりに紙の本とゆっくり向き合えて楽しかった」「幼い頃に読んだ本を改めて開いてみて、新しい発見があった」「書店員さんの“本を読みたい”と思わせてくれる見せ方がすごいと感じた」など参加学生たちから多くの声が寄せられ、選書ツアーを存分に楽しんでいた様子でした。このツアーをきっかけに今後多くの本と触れ合ってくれることを願っています。2024年1月13日(土)~31日(水)には紀伊國屋書店新宿本店3F(アカデミックラウンジ前)でPOP展示を行います。学生たちの力作POPをぜひご覧くださいませ。



◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆

不自由を世の常と思わば、別に苦情も起らなければ、
下らぬ心配も起るはずがない。
かくてその志すところの事に従うがよい。

【渋沢栄一訓言集】・立志と修養】



思い通りに進まないことが普通の状態と思っていると、心が冴ぎ、穏やかな気持ちになります。満足の状態が常でないことが、前に進む気持ちを生みます。

※格言は『渋沢栄一 明日を生きる100の言葉』渋澤健 著/日本経済新聞出版社 p.20より転載

◇ 看護をシンプルに見える化した1冊! ◇



「ひと目で見える」「わかりやすい」をコンセプトとした『病気の見取図』。本書は経験豊かな看護師の方が執筆し、各診療科の医師の方が監修したまさに虎の巻的な1冊です。疾患の特徴や注意点が端的にわかるほか、先輩看護師の方からのアドバイスやドクターコールのタイミングまで示されています。臨床現場では、短い時間で患者さんの状態を把握し、「いま必要な看護」を迅速かつ的確に提供することが求められています。いざという時に頼りになる新感覚の疾患事典です。ぜひご一読を。



夢をかなえるゾウ 1 (水野敬也 著 / 文響社)

もガネーシャのアドバイスを実践していく中で、気分が明るくなり、人生が好転していきます。何故この課題をクリアすることで夢がかなうのか、理由はぜひ本を読んでみてください。関西弁のガネーシャが、ボケやユーモアを交えながら楽しく伝えてくれます。

私も十数年ぶりに読み返して、第一の課題「靴を磨く」を実行してみました。わが家は夫が靴を磨く担当なので、久しぶりの靴磨きです。実際に磨いてみると、小さなことですが何とも言えない心地よさと達成感を感じました。当たり前のように履いていた靴ですが、自分で磨いた靴を履くことで、普段よりも背筋がピンと伸びた気がしました。毎日靴を磨いてもらっている事に対して、改めて感謝の気持ちを感じることができました。

私たちが生活する中で当たり前にあるもの、でもそれは当たり前ではないことを忘れずに、毎日に感謝の気持ちを持つこと。意識だけを変えようとするのではなく、小さなことでも行動することで、少しずつ何かが変わる。そして挑戦し続けることで自分の人生を楽しく切り開いていくのです。この本は、そんな当たり前に大切なことを思い出させてくれる一冊です。本書は第0~4巻までシリーズ化されています。どのシリーズもお勧めです。

パリ ポンピドゥーセンター キュビズム展—美の革命 ピカリ、ブラックからドローネー、シャガールへ

フランスの首都パリの中心部にあるポンピドゥーセンターは、ジョルジュ・ポンピドゥー元仏大統領の構想により、1977年に複合文化施設として開館しました。建築界のノーベル賞ともいわれるプリツカー賞を受賞した2人の著名な建築家、リチャード・ロジャースとレンゾ・ピアノによって設計されたユニークな外観（パイプやチューブ状のエスカレーターがむき出しになっています）は、パリ市内でもひと際異彩を放っています。2023年10月3日（火）から国立西洋美術館（東京・上野）で開幕する「パリ ポンピドゥーセンター キュビズム展—美の革命 ピカリ、ブラックからドローネー、シャガールへ」では、世界屈指の近現代美術コレクションを誇るポンピドゥーセンターから、キュビズムの歴史を語る上で欠くことのできない貴重な作品が多数来日します。そのうち50点以上は日本初出品で、中でも横幅4mに及ぶロベール・ドローネーの《パリ市》は、ポンピドゥーセンターを象徴する大作のひとつとして親しまれています。

キュビズムとは、20世紀初頭にパブロ・ピカリとジョルジ・ブラックという2人の芸術家によって生み出された絵画の技法です。彼らは、西洋絵画の伝統的な技法であった「遠近法や陰影法による三次元的な空間表現」から脱却して「幾何学的に平面化された形によって画面を構成する」ことを試みました。視覚表現に新たな可能性を開いたキュビズム。平面的でカットガラスをつなぎ合わせたようなその風貌は、絵画を現実の再現と考えるルネサンス以来の常識から画家たちを解放し、形を自由化した現代美術の出発点となりました。ポール・セザンヌやアンリ・ルソーの絵画、そしてアフリカの彫刻に大きな刺激を受けたピカリは、1907年にキュビズムを取り入れた《アヴィニヨンの娘たち》（本展には不出品）を発表。これに影響を受けたブラックは、翌年に風景画《レスタックの家》を発表し、この風景画が小さなキューブ（立方体）の集まりに見えたことから「キュビズム」という名が付けられたと言われています。

日本でキュビズムを正面から取り上げる本格的な展覧会はおよそ50年ぶりです。皆さん、この機会をぜひお見逃しなく。



◇ 蓮華升麻（レンゲショウマ）◇



©2023 Kaori Nagatsuka

深山に咲く森の妖精レンゲショウマ。日本にだけ生育する一属一種の希少な山野草です。真ん丸の小さな蕾がくす玉のように割れて花が開き、うつむき加減に咲きます（その姿から「森のシャンティリア」という愛称がつきました）。花期は夏ですが、涼しげな様子に癒されます。花言葉は「伝統美」。上品で奥ゆかしい佇まいに日本の美しさを感じます。

◆ 図書館からのお知らせ ◆

いつも図書館をご利用いただきましてありがとうございます。令和5(2023)年度からコロナ禍前と同様に学習スペースをお使いいただけようになりましたが、荷物を置いたままの長時間の離席等もなく、利用者の皆様のマナーの良さに大変感謝しております。図書館1Fの学習スペースが満席の場合は、図書館2Fにも学習スペースがありますのでぜひご利用ください。なお、図書館内はいずれも飲食禁止（倒れてもこぼれない蓋付き飲料のみ持込み可）です。利用者の皆様がお互いに気持ちよく図書館をお使いいただけますよう、ひき続き度あるご利用、ご協力ををお願いいたします。

写真:ロベール・ドローネー「パリ市」1910-1912年/ポンピドゥーセンター(1936年国家購入)Centre Pompidou, Paris, Musée national d'art moderne - Centre de création industrielle。Centre Pompidou, MNAM-CCI Georges Meguerditchian Dist. RMN-GP※画像の転載ならびにコピー・禁止 会場: 国立西洋美術館 (〒110-0007 東京都台東区上野公園7番7号) 会期: 2023年10月3日(火) ~ 2024年1月28日(木) 開館時間: 9:30~17:30(毎週金・土曜日9:30~20:00分)※入館は閉館の30分前まで 休館日: 月曜日(ただし10月9日(月祝)、2024年1月8日(月祝)は開館)、10月10日(火)、12月28日(木)~2024年1月1日(月祝)、1月9日(火) 報酬(税込): 一般 2,000円 / 大学生 1,300円 / 高校生 900円 ※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方とその添者(1名)は無料。それぞれ入館の際、学生証等の年齢のわかるもの、障がい者手帳等をご提示ください 展覧会公式HP: <https://cubisme.exhn.jp> 国立西洋美術館HP: <https://www.nnmw.go.jp> ※最新の情報はHPをご覧ください